

NCAJ

National Camping Association of Japan

事業報告書 2012



公益社団法人日本キャンプ協会

2012年度事業総括

2012年度は、公益社団法人への移行という日本キャンプ協会にとって大きな組織的変化を伴う年度でした。また、前年度に策定された「中期総合計画」は、この年度から協会設立50周年となる2016年を対象期間とするものであり、名実ともに変化が生じた一年と言えます。

しかし、日本キャンプ協会が行ってきた事業は、設立のときから常にキャンプを通じて公共の福祉を図ることを目的としており、公益性において本質的な変化があったわけではありません。この年度は、中期総合計画で示された指針に沿う形で改善を図りながら、キャンプの普及、指導者の養成、調査研究等の事業を進めてきました。

2011年3月11日の東日本大震災をきっかけとして始まったグリーフキャンプについては、公益財団法人日本YMCA同盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団との協働の下、震災で大切な人を亡くした子どもたちを対象に、秋と春2回のキャンプを実施しました。

これらのキャンプでは、「おもいでで時間」と題したグリーフサポートのアクティビティを専門家の指導の下で行い、亡くなった大切な人のことや今の生活についていねいに考えてみる時間を持ちました。また、春のキャンプは、神戸YMCA余島野外活動センターを会場に行いました。海辺での楽しい時間は、大切な人やものを奪っていった海との新しい関係を結ぶ契機となったのではないのでしょうか。

5月に行ったCamp Meeting in Japan 2012では、震災支援として行われたキャンプについての発表が10題あり、被災者支援においてキャンプの果たしうる役割の大きさを再確認することができました。

東日本大震災は甚大な被害を生じさせ、被災地域の回復には長い時間がかかることが予想されます。しかし、だからこそ私たちに多くのことを再確認させてくれたとも言えます。キャンプが社会のさまざまな課題に対応する役割を果たしうること。そして、さまざまな専門性を持つ人たちとのつながり、団体同士のつながりが非常に大切であること。これらも震災以降の経験を経て得ることのできた、大切な気づきです。

指導者養成については、課程認定団体におけるディレクター2級の養成を試行し、A団体(都道府県キャンプ協会)でプログラムディレクターの養成、B団体(課程認定校)でマネジメントディレクターの養成を行いました。この試みにおいて、受講機会の増加については一定の効果が見られましたが、同時にいくつかの課題も明らかになり、今後の指導者養成制度改善のためのいくつかの示唆を得ることができました。

組織基盤の強化、運営体制の再構築など、さまざまな課題が積み重なった状況の中で、足踏みした部分も多い一年でした。しかし、そのことによって次に向けた対応策を見いだすことができた部分もまた多くありました。成果を示せるのは2013年度以降となるものの、次につながる作業を少しずつ進めることのできた一年となりました。

2012年度も多くの方々の方に支えられ、さまざまな事業を行えたことを感謝申し上げます。

目 次

2012 年度事業総括	1
1. キャンプの活動を社会に広め、発展させていく事業	3
1) グリーフキャンプの実施	
2) キャンプアカデミーの実施	
3) キャンプ普及のための各種キャンペーンの実施	
4) 国内外の情報の収集と提供	
5) キャンプインフォメーションセンターの運営	
6) 会報誌「CAMPING」の発行	
7) WEB サイトの運用・メールマガジンの配信	
8) 都道府県キャンプ協会の広報活動の支援	
9) 自然体験活動の場の提供と施設の運営	
10) 都道府県キャンプ協会へのキャンプ用品・用具の配布	
2. キャンプの普及と振興に関する指導者の養成事業	13
1) 指導者養成講習会	
2) 指導者の審査・認定及びそれにかかる事務	
3) 指導者養成制度の改善に関する検討	
4) 指導者養成のためのテキストの発行	
5) 都道府県キャンプ協会指導者研修会	
6) 各都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業の承認・支援	
3. キャンプに関する研修会、講習会、セミナー等の開催及び調査・研究事業 ...	17
1) Camp Meeting in Japan 2012 の開催	
2) 定期刊行物の発行	
4. 法人事務	19
1) 諸規程の整備	
2) Monthly Report の発行	
3) 諸会議の開催	
4) 各種団体等への協力・共催・後援	
5) 日常法人業務	
CAMPING AWARD 2012 受賞者.....	22
公益社団法人日本キャンプ協会 2012・2013 年度 役員.....	26
公益社団法人日本キャンプ協会 2012・2013 年度 運営委員.....	27
事務局スタッフ	28

1. キャンプの活動を社会に広め、発展させていく事業

キャンプが人々のところと身体にいい影響を与えることを広く社会に向けてアピールし、キャンプの普及・振興を図るために、「人を育てるキャンプ」に携わる他団体等とも協力して事業を行った。

1) グリーフキャンプの実施

本会と公益財団法人日本 YMCA 同盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団との協働プロジェクトとして、東日本大震災で大切な人を亡くした子どもたち(朝日新聞厚生文化事業団の実施する「こども応援金」申し込み者)を主な対象に参加を募り、9月と3月の計2回、キャンプを実施した。

また、国内外の先行事例や資料からグリーフキャンプについて学ぶとともに、キャンプに関わるスタッフの学びの場、交流の場となるよう、キャンプアカデミーとして研修の機会を設けた。

被災児童を対象としたキャンプの実施

SKY CAMP in あさぎり (第2回グリーフキャンプ)

期 日：9月15日(土)～9月17日(月)

会 場：静岡県立朝霧野外活動センター(静岡県富士宮市)

参加者：8歳から19歳の男女17人

主 催：日本キャンプ協会 日本 YMCA 同盟 朝日新聞厚生文化事業団

協 力：(NPO)子どもグリーフサポートステーション

静岡県立朝霧野外活動センター (株)ロゴスコーポレーション



SKY CAMP in あさぎり

SKY CAMP in よしま (第3回グリーフキャンプ)

期 日：3月26日(火)～3月30日(土)

会 場：神戸 YMCA 余島野外活動センター(香川県小豆郡)

参加者：8歳から17歳の男女18人

主 催：日本キャンプ協会 日本 YMCA 同盟 朝日新聞厚生文化事業団

協 力：(NPO)子どもグリーフサポートステーション

(公財)神戸 YMCA・神戸 YMCA 余島野外活動センター



SKY CAMP in よしま

「SKY CAMP in あさぎり」「SKY CAMP in よしま」は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄附金を用いて実施しました。

キャンプに関わる指導者の研修

キャンプに関わる指導者を対象にキャンプアカデミー(5ページ参照)でグリーフキャンプの概要を学んでもらうとともに、その前後にミーティングを持ち、具体的な対応方法などについて情報の共有を図った。

東京会場 2月9日(土)

神戸会場 2月11日(月)

仙台会場 2月23日(土)

先行事例の研究

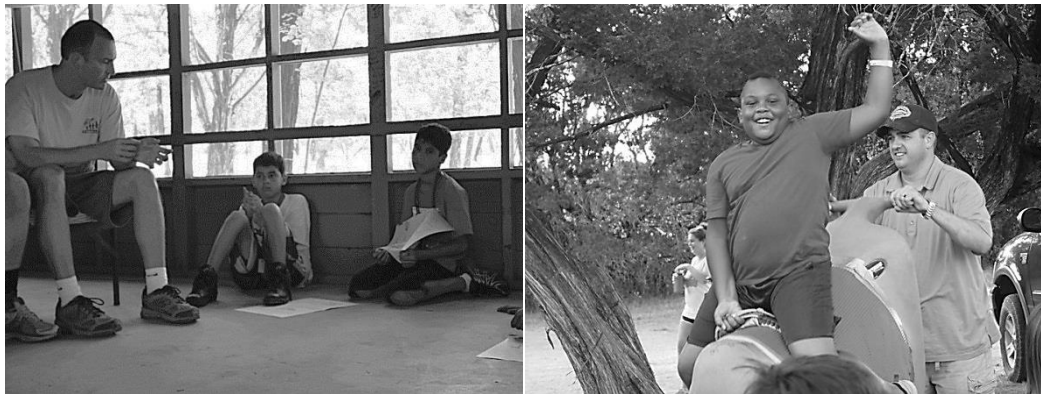
El Tesoro de la Vida 視察

2011 年度に引き続き、Camp Fire USA First Texas Council が実施するグリーフキャンプ El Tesoro de la Vida に参加し、キャンプの視察を行った。この年度は特にセラピーセッション(同性同世代のグループで行うグリーフワークのためのグループ活動)に注目して視察を行った。

期 日：2012 年 7 月 29 日(日)～8 月 4 日(土)

訪問先：El Tesoro de la Vida (米国テキサス州)

参加者：2 人



El Tesoro de la Vida

資料収集と文献調査

グリーフキャンプの先行事例ならびに子どもを対象としたグリーフケアに関する資料文献の収集と調査を行った。

2) キャンプアカデミーの実施

キャンプとキャンプの周辺領域に関わることがらを学ぶ機会として、キャンプアカデミーを実施し、グリーフケアとキャンプの関係について学んだ。また、「人を育てるキャンプ」に携わる 5 団体(日本キャンプ協会・日本 YMCA 同盟・東京 YWCA・ボーイスカウト日本連盟・ガールスカウト日本連盟)が実施する「出会いと体験の森へ」事業については、2 期目として「キャンプリーダー交流塾」を実施した。

キャンプアカデミー「グリーフケアとキャンプの接点」

講座は 2 部構成で、第 1 部では、海外での先行事例とこれまでの本会の取り組みを紹介し、グリーフケアにキャンプがどのように役立つかを考えた。第 2 部ではグリーフの基本的な知識を学ぶとともに、ワークを通してグリーフキャンプのスタッフとして関わるための基本的な構えを学んだ。

東京会場 期 日：2013 年 2 月 9 日(土)
 会 場：日本 YMCA 同盟(東京都新宿区)
 参加者：20 人

神戸会場 期 日：2013 年 2 月 11 日(月)
 会 場：神戸 YMCA 三宮会館(神戸市中央区)
 参加者：24 人

仙台会場 期 日：2013 年 2 月 23 日(土)
 会 場：子どもグリーフサポートステーション (仙台市青葉区)
 参加者：15 人



キャンプアカデミー「グリーフケアとキャンプの接点」

出会いと体験の森へ 第 2 期「キャンプリーダー交流塾」

第 2 期は次世代を担う若手指導者育成を目的に「キャンプリーダー交流塾」として、実習を交えた連続講座として実施した。各団体の若手指導者が参加し、14 人が所定のカリキュラムを修了した。

期日	内容	会場
5 月 20 日	第 1 回交流塾	ボーイスカウト会館
5 月 27 日	実習 1「春のキッズフェスタ」	国立総合青少年センター
6 月 17 日	第 2 回交流塾	東京 YWCA 会館
10 月 14 日	第 3 回交流塾	東京 YMCA 東陽町ウェルネスセンター
10 月 27 日	実習 2「秋のキッズフェスタ」	国立総合青少年センター
11 月 11 日	第 4 回交流塾	ガールスカウト会館

報告書 <http://deai.camping.or.jp/2012deaireport.pdf>

3) キャンプ普及のための各種キャンペーンの実施

野外での安全について一般に周知するためのキャンペーンを関係団体と協働で実施した。

セーフティアウトドアキャンペーン(7月～8月)の実施

自然体験活動を行う団体と協働して、セーフティアウトドアキャンペーンを実施した。

キャンプの安全標語募集と選定(6月～9月)

応募点数：1,161

最優秀作品

「安全なキャンプはみんなが責任者」

南 英一さん(滋賀県・76歳)

優秀作品

「自然の声 耳を澄ませて 安全キャンプ」

奥田雅信さん(兵庫県・41歳)



安全標語の最優秀作品は会員証に印刷

4) 国内外の情報の収集と提供

キャンプに関連する情報の収集を行い、適宜、CAMPING やメールマガジン、Monthly Report 等を通じて情報提供を行った。

国外については、アメリカキャンプ協会の年次大会でグリーフキャンプの進捗状況に関する発表を行うとともに、情報収集、打合せを行い、2013年度に行われるアジア・オセアニア・キャンプ会議等の事業につなげた。

アメリカキャンプ協会年次大会への参加

期 日：2月12日(火)～2月15日(金)

会 場：ハイアットリージェンシー・ダラス(米国テキサス州)

発 表：Grief Camp for the bereaved children

～under the partnership of global camp community～

5) キャンプインフォメーションセンターの運営

キャンプに関する相談窓口として、電話や電子メールによる相談に応じたほか、都道府県キャンプ協会を通じた指導者派遣、マスコミ等の取材対応を行った。

6) 会報誌「CAMPING」の発行

キャンプに関する情報やキャンプの現場で役立つさまざまなスキル、本会の事業内容等を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した(各号約 15,000 部)。経験の少ない指導者にも役立つよう、わかりやすい紙面作りを心がけた編集を行った。

No.	発行月	特集
146	4 月/5 月	トレーニング
147	6 月/7 月	衛生
148	8 月/9 月	グループの力
149	10 月/11 月	もうひとつのディキャンプ
150	12 月/1 月	被災地キャンプ～2 年目の夏
151	2 月/3 月	グリーフキャンプ



会報誌 CAMPING

7) WEB サイトの運用・メールマガジンの配信

インターネットを活用して各種情報の提供を行った。

WEB サイトを通じた情報発信

本会や各都道府県協会、関連団体の実施する事業の告知や報告、本会の団体情報などの各種情報を WEB サイト (<http://www.camping.or.jp>) を通じて提供した。

メールマガジン「CAMPING News」の発行

会員等の活動への参加機会を増やすことを目的に、BUC 事業を中心とする講習会やイベントの情報、助成金情報などを提供するメールマガジンを発行した。

発行回数：15 回（年末年始を除く 3 週毎の金曜日発行）

送 信 数：約 2,300 通（発行時により変動・別途 PDF 版を WEB サイトで公開）

8) 都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

都道府県キャンプ協会が会員等への情報提供を支援するためのサービスを提供した。

会報同封サービス

各県協会が会員に対する情報発信を行いやすくなるように、県協会の会報等を「CAMPING」に同封して発送するサービスを提供し、各協会の広報活動を支援した。

利用した都道府県協会の数 25 のべ発送点数 42,431

メールアドレス及び WEB サーバーの提供

各県協会にメールアドレスと WEB サーバーを提供し、インターネットを利用した情報提供、情報交換を容易に行えるよう支援した。

9) 自然体験活動の場の提供と施設の運営【静岡県立朝霧野外活動センター】

朝霧野外活動センターの管理・運営は順調に6年目を経過し、継続的に行っている自然体験活動プログラムの提供に加え新しいプログラム開発にも力を注いだ。特に、5月には朝霧高原で数百年に一度しか見ることのできない金環日食をプログラム化した。多くの参加者とともに富士山上空で繰り広げられる天体ショーを目撃し、興奮と感激に満ちた時を共有できたことはすばらしい体験であった。

また、この年度は指定管理者となって過去最高の利用者数を記録することとなった。さらに外部評価委員会による評価も昨年度を上回り、青少年教育施設としての役割を十分果たしているとの評価を受けた。

受け入れ事業の支援

静岡県内を中心に幅広い地域の学校・地域団体・企業等の利用受け入れを行い、その利用を効果的にサポートできるよう、十分なコミュニケーションの確保に努めた。

また、利用者支援のためには職員のスキルの向上が不可欠であるので、MFA(救急法)資格の取得や静岡青少年施設合同職員研修会への参加等を通してスタッフ一人ひとりのスキルアップを図った。

新規プログラム開発

富士山西麓に位置する朝霧高原の立地を生かした新しいプログラムの開発(ハイキングコース設定やコース図の新規作成等)やさまざまな野外活動場面で用いることのできるプログラムの開発・改良に努めた。また、野外活動における安全マニュアルを更新し、利用者のニーズに沿うと同時に、参加者が自らの安全を作り出すことの重要性を感じられるプログラムづくりを行った。

地域との協働

朝霧野外活動センターに隣接する富士丘地区をはじめ、近隣地域や施設との協力関係を更に深め、センターが実施する各種事業等への理解と協力を仰いだ。さらに、地域の行事にも積極的に参加し、相互理解を図り地域の活性化に寄与することに努めた。特に、9月に実施したトレイルランニングレースでは地元の中学校が体育授業の一環として参加するなど、新しいかたちの協働が生まれることとなった。



金環食 in あさぎり

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	参加数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月1日(日)	小学校5年生～中学校3年生	55
	8月4日(土)		55
	～8月12日(日)		

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	参加数
野外活動プログラム実習	4月13日(金) ～4月14日(土)	利用団体の担当者・指導者	73
	11月2日(金) ～11月3日(日)		12
長期キャンプ指導者 養成講習会	6月16日(土) ～6月17日(日)	専門学校生 短期大学生 大学生	33
	7月7日(土) ～7月8日(日)		
	8月4日(土) ～8月12日(日)		
	10月13日(土) ～10月14日(日)		
野外教育指導者養成講習会	2月9日(土) ～2月11日(月)	野外教育に興味のある人、 青少年団体の指導者、教育関係者	32

施設開放事業

事業名	日程	対象	参加数
朝霧カーニバル	11月4日(日)	一般	3,338
スケートフェスティバル in あさぎり	11月4日(日)・3月31日(日)	家族・小グループ	205
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日	家族・小グループ	3,253
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日	家族・小グループ	1,916

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加数
ちょっといい春感じませんか	4月21日(土)～4月22日(日)	家族・小グループ	109
金環食 in あさぎり	5月20日(日)～5月21日(月)	小学生～大学生 一般	145
朝霧高原トレイルランニングレース	9月8日(土)～9月9日(日)	一般	782
すてきな秋をあなたに	9月29日(土)～9月30日(日)	家族・小グループ	119
オリエンテーリング in 朝霧	11月24日(土)～11月25日(日)	家族・小グループ	294
スケートキャンプ	12月14日(金)～12月15日(土)	家族・小グループ	48
	1月18日(金)～1月19日(土)		51
	2月1日(金)～2月2日(土)		53
	3月8日(金)～3月9日(土)		49
223(ふじさん)ウォーキング	2月23日(土)	家族・小グループ	132

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加数
ホッとキャンプ	3月5日(火) ～3月8日(金)	引きこもりがちな青少年	14

静岡県助成事業

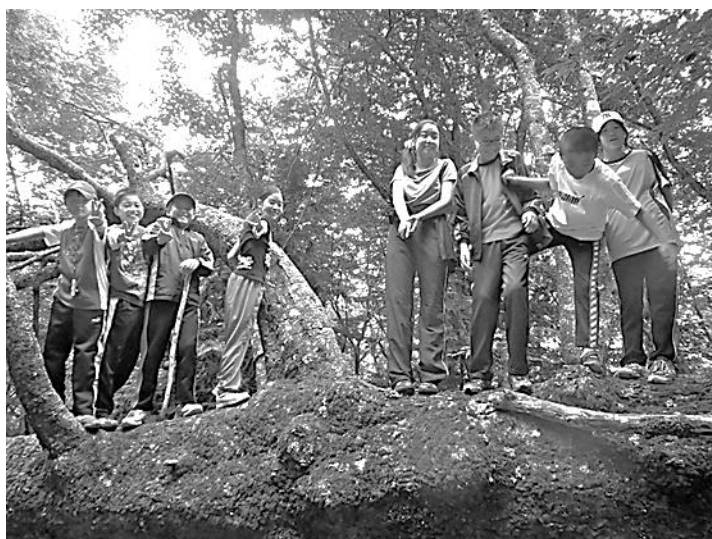
事業名	日程	対象	参加数
しずおかみんな de キャンプ (焼津・朝霧・観音山の3会場)	9月15日(土) ～9月16日(日)	不登校傾向にある小学校4年生から 中学校3年生までの児童・生徒	11
	10月12日(金) ～10月14日(日)		15
	11月8日(木) ～11月11日(日)		17
	12月21日(金) ～12月24日(月)		12

本館棟利用者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2010	3,308	5,156	4,825	5,807	6,326	4,665	4,522	8,004	2,134	2,256	2,374	569	49,946
2011	1,692	4,217	5,178	6,083	4,470	5,674	4,302	2,628	2,649	2,624	2,190	3,630	45,337
2012	3,864	5,660	5,322	6,071	5,553	5,807	4,312	5,941	2,399	2,230	2,057	3,840	53,056

キャンプ場利用者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2010	124	2,998	1,880	2,298	5,270	3,013	1,202	1,214	355	673	179	76	19,282
2011	84	2,081	1,961	2,280	3,935	4,359	956	176	529	485	173	893	17,912
2012	296	3,026	3,083	2,934	3,561	3,409	1,399	957	519	573	173	555	20,503



つながろう富士山



スケートキャンプ

平成 24 年 (2012) 度 静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者外部評価委員会評価結果

総合評価 **A** [9 段階評価 A⁺, A, A⁻, B⁺, B, B⁻, C⁺, C, C⁻]

評 価 項 目		評価ポイント		
		24 年度	23 年度	22 年度
評 価 の 総 括		A	A	A
項 目 別 評 価	①少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A	A ⁻	A ⁻
	②少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A	A	A ⁻
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A	A ⁻	A
	④学校利用への適切な対応	A ⁻	B ⁺	A ⁻
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A	A	A

(参考)

9 段階評価ポイント記号の意味					
A	十分満足できる	B	おおむね満足できる	C	努力を要する
* 心象として ABC に対して上回るか下回るかにより、必要に応じて＋－の付加記号を付ける。					

10) 都道府県キャンプ協会へのキャンプ用品・用具の配布

安全で楽しいキャンプを普及させるため、(財)日本宝くじ協会より助成を受けて全国の都道府県キャンプ協会に対してテントの配布を行った。これらのテントは都道府県協会が主催する各種講習会、指導者研修、キャンプなどで幅広く活用されるとともに、都道府県協会を通じて、加盟団体などが行うイベント等にも貸し出しされ、有意義に使用された。

配布件数 40 協会 3 種 64 張



2. キャンプの普及と振興に関する指導者の養成事業

この年度は養成制度の見直しを検討、試行した。キャンプディレクター2級については、受講機会の拡大と受講者の増加を図るため、マネジメントディレクター・コースの課程認定団体(B団体)における養成の試行を継続、2013年度の本実施の準備を行った。プログラムディレクター・コースについては、都道府県キャンプ協会(A団体)主催の養成を試行した。

1) 指導者養成講習会

キャンピングインストラクター養成講習会(課程認定A・B・C団体による実施)

都道府県キャンプ協会(A団体)による養成数	590
課程認定校・社会教育団体等(B・C団体)による養成数	2,417

- ・ 3,000人の養成目標に対し3,007人の養成が行われ、達成率100.2%であった。
- ・ 昨年の2,864人と比較し、5.0%の増であった。

キャンプディレクター2級(プログラムディレクター)養成講習会(A団体による実施)

主催県	日程	受講数	会場
秋田	8月17日(金) ～8月19日(日)	9	秋田県立保呂羽山少年自然の家
東京	11月23日(金) ～11月25日(日)	15	千葉県南房総市立大房岬少年自然の家
大阪	2月9日(土) ～2月11日(月)	12	吉野宮滝野外学校

キャンプディレクター2級(マネジメントディレクター)養成講習会

日程	受講数	会場
2月16日(土)～2月17日(日)	15	国立オリンピック記念青少年総合センター

※ 別途、課程認定団体(B団体)13校による養成も行われた。(15ページ参照)

キャンプディレクター1級養成講習会

日程	受講数	会場
11月22日(木)～11月25日(日)	8	国立中央青少年交流の家

キャンプディレクター1級検定会

日程	受検数	会場
1月19日(土)～11月20日(日)	7	国立オリンピック記念青少年総合センター



キャンプディレクター養成講習会

2) 指導者の審査・認定及びそれにかかる事務

資格申請者の審査・認定

認定日	キャンプ インストラクター		キャンプ ディレクター2級		キャンプ ディレクター1級	
	受験者数	合格者数	申請者数	合格者数	申請者数	合格者数
6月13日			5	5		
8月29日			7	7		
9月26日			3	3		
10月23日			1	1		
1月22日			12	12		
2月21日			5	5	5	5
3月18日			33	33	2	2
特別認定			22	22	195	195
課程認定 団体養成分	3,007	3,007				
合計	3,007	3,007	88	88	202	202

指導者資格の更新

キャンプ インストラクター	キャンプ ディレクター2級	キャンプ ディレクター1級	合計
5,114	1,861	1,189	8,164

課程認定団体の審査・認定

審査会日程	新規課程認定団体名
6月13日	B団体 東京国際大学（埼玉県） 精華女子短期大学（福岡県） 大原スポーツ公務員専門学校宇都宮校（栃木県） 東京家政大学 児童教育学科（東京都）

2012年度課程認定団体数

A団体	B団体	C団体
46	121	5

課程認定団体の連絡調整

課程認定団体(A・B・C団体)の養成担当講師を対象に研修会を実施し、キャンプインストラクター養成事例の紹介、事務連絡等を行った。

日 程：5月26日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者：37団体 46人(A団体 10団体 14人・B団体 27団体 32人)

課程認定団体のうち、キャンプディレクター2級(マネジメントディレクター、プログラムディレクター)養成の実施を申請した団体に対し、養成担当講師の研修会を実施した。

日 程：5月26日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者：プログラムディレクター・コース(A 団体) 5 団体 8 人

マネジメントディレクター・コース(B 団体) 6 団体 7 人

認定証、資格章(バッジ)等の作成

指導者の認定に伴い、認定証、資格章(バッジ)、登録用紙を作成した。

3) 指導者養成制度の改善に関する検討

キャンプディレクター講習会に関する検討

キャンプディレクター1 級養成講習会については、前の年度に受講生の便宜を図って日程を4泊5日から3泊4日(3連休を含む4日間)に変更したが、この年度は短くなった日程に合わせて講義内容を精査し、講習会の充実を図った。また、キャンプディレクター2 級(プログラムディレクター)養成講習については、都道府県キャンプ協会(A 団体)主催での実施を試行した。

キャンプディレクター2 級(マネジメントディレクター)養成の課程認定団体での試行

キャンプディレクター2 級(マネジメントディレクター)を課程認定団体(B 団体のみ)で実施できるよう、試行を継続した。本年度も昨年度に引き続き 13 団体で養成を行った。

対象課程認定団体 13 団体

北翔大学(北海道)、仙台大学体育学部(宮城県)、千葉大学教育学部(千葉県)、日本大学文理学部(東京都)、田園調布学園大学(神奈川県)、国際自然環境アウトドア専門学校(新潟県)、愛知教育大学(愛知県)、桃山学院大学(大阪府)、関西学院大学(兵庫県)、福山 YMCA 国際ビジネス専門学校(広島県)、九州共立大学スポーツ学部(福岡県)、福岡大学スポーツ科学部(福岡県)、熊本 YMCA 学院(熊本県)

キャンプディレクター2 級(プログラムディレクター)養成の課程認定団体での試行

キャンプディレクター2 級(プログラムディレクター)を課程認定団体(A 団体のみ)で実施できるよう、試行を開始した。この年度は 5 団体から開催申請があったが、実施したのは 3 団体(秋田県協会・東京都協会・大阪府協会)であった。(2 団体は開催中止)

4) 指導者養成のためのテキストの発行

指導者養成に用いるテキスト「キャンプ指導者入門」「キャンプディレクター必携」の販売管理を行った。

5) 都道府県キャンプ協会指導者研修会

キャンプ普及の直接的な担い手である都道府県キャンプ協会の活動を支援する目的で研修会を実施した。

第1回 期日：5月27日(日)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

第2回 期日：3月24日(日)
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

6) 各都道府県キャンプ協会の実施するBUC事業の承認・支援

スキルアップと交流の機会として本会及び都道府県協会が実施する事業のうち、所定の条件を満たすものをBUC(Brush UP & Communication)事業として認定し、必要に応じて事業実施のための支援を行った。

年度	BUC 事業数	参加登録者数	実施事業協会数※
2012	134	1,534	42
2011	111	1,477	40
2010	119	1,546	40

※実施協会数には日本キャンプ協会を含む

3. キャンプに関する研修会、講習会、セミナー等の開催及び調査・研究事業

野外活動における実践や研究によって得られる情報を収集、蓄積、整理して社会に発信していくことはキャンプの普及にとって重要な仕事である。新しい情報を指導者同士で共有し、情報を有効に活用することができるようにするための事業を実施した。

なお、事業実施にあたっては 2013 年度以降にリニューアルを行うことを前提として、今後の進め方の検討をあわせて行った。

1) Camp Meeting in Japan 2012 ～第 16 回日本キャンプ会議～ の開催

国内外のキャンプの実践報告や研究発表を通じて、指導者同士で有意義なキャンプ情報の共有が図れるよう交流の場として開催した。この年度は「震災」というテーマを設定し、被災児童を対象としたキャンプに関する口頭発表も多く行われた。

期 日：5 月 26 日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター内（東京都渋谷区）

発表者：18 人

参加者：65 人

内 容

〔特別講演〕「グリーフ（ワーク）×キャンプ」にできること

講師：西田正弘氏（NPO）子どもグリーフサポートステーション代表

〔口頭発表〕16 題

防災教育に必要とされるキャンプ技術～石巻での 21 日間の支援から～
「～のんびり遊ぼう～ニコニコキャンプ!!」リフレッシュキャンプの実践報告
「福島の子供たちとその家族に笑顔を」～アカデミーキャンプの実践報告
YMCA フレンドシップキャンパー子どもらしく過ごせる時間を取り戻す
県外避難者の子どものケアとキャンプ
三鷹子どもの楽校 福島の子どもたちと森の楽校サマーキャンプ～「つくる」を遊ぶ夏季学校～
リフレッシュ・キャンプ参加者の実態調査①
レスキューザックの開発と効果
年間利用者 8,000 人超の「立少トントんたんけん隊」の実態と今後の展望
地域と学校の有機的連携を促す自然体験活動に関する研究～広島県廿日市市の事例から～①
キャンプ体験が教職志望学生の自然体験活動の指導力に及ぼす影響①
大学生の宿泊研修(野外活動)の現状と課題（第 2 報）
Experiential Education Evaluation From:3E フォームの開発
Experiential Education Evaluation From:3E フォームのデモンストレーション
キャンプ指導者養成におけるスキル習得に関する考察
沖縄の無人島キャンプにおける自己・他者肯定感の変容

[ポスター発表] 5 題

静岡県立朝霧野外活動センター利用団体の教育的効果③－4 ヶ年調査結果の分析
東日本大震災被災地でのグリーフキャンプの実施報告「岩手しぜんとあそぼキャンプ in テンパーク」の取り組み
地域と学校の有機的連携を促す自然体験活動に関する研究～広島県廿日市市の事例から②
キャンプ体験が教職志望学生の自然体験活動の指導力に及ぼす影響②
リフレッシュ・キャンプ参加者の実態調査②



Camp Meeting in Japan 2013

2) 定期刊行物の発行

国内外のキャンプ実践者や研究者の成果発表の場としてだけでなく、キャンプの情報を伝える研究誌として内容を見直し、「キャンプ研究 第16巻」を発刊した。上級資格を目指す会員へも有用な情報が届けられるよう送付対象をキャンプディレクター2級に広げるとともに、WEB サイトでの公開も行い、全ての会員が読むことができるようにした。

発行日：3月10日

発行部数：3,500部（別途PDF版をWEBサイトで公開）

[研究論文]

- ・ キャンプ参加児童に対する教育効果と保護者の認識・期待との関連性

[実践報告]

- ・ 被災地域の児童を対象としたキャンプ実践報告と今後の課題
- ・ 自然体験型健康増進プログラム「スマイル・ウォーク」の実践とその成果
- ・ 大学生の宿泊研修（野外活動）の現状と課題—第2報



キャンプ研究 第16巻

4. 法人事務

本会の事業が適正に行われるよう、また都道府県キャンプ協会及び関係団体との円滑な協働が図れるよう、必要な日常業務を行った。

1) 諸規程の整備

公益法人化にともなって必要となる各種規程類の見直し・整備を行い、第2回理事会において承認を得た。

2) Monthly Report の発行

公益社団法人としてのスタートを機に、理事、監事、運営委員、都道府県キャンプ協会事務局及びその運営に関わる方を対象に、本会の運営状況をはじめキャンプに関連する情報を提供することを目的に Monthly Report を月1回発行した。

3) 諸会議の開催

会議名	回数	日程・会場等
総会	2	5月26日・3月23日
理事会	3	5月26日・5月26日（臨時）・3月9日
監査	1	5月16日
常務会	9	4月19日・5月9日・7月4日・8月29日・9月26日・10月23日 11月19日・1月22日・2月21日
ブロック会議	8	全ブロック 5月26日・3月23日 東京（NYC） 近畿ブロック 7月22日 大阪府大阪市 関東ブロック 9月29日-9月30日 群馬県藤岡市 北海道・東北ブロック 10月27日 北海道札幌市 九州・沖縄ブロック 10月27日 福岡県八女市 中国・四国ブロック 12月15日 徳島県阿南市 中部・北陸ブロック 12月16日 愛知県名古屋市

運営委員会

会議名	回数	日程・会場等
総務委員会	9	4月19日・5月9日・7月4日・8月29日・9月26日 10月23日・11月19日・1月22日・2月21日（常務会と同時開催）
普及・CAMPING 編集	6	4月9日・6月18日・7月9日・10月1日 12月1日-12月2日（朝霧）・2月18日
指導者養成・認定	4	6月13日・8月29日・10月23日・2月21日
Camp Meeting	2	10月22日・11月15日
組織整備	1	1月14日
全体運営委員会	1	3月8日

その他の会議

会議名	回数	日程・会場等
設立式典	1	10月27日(北海道)
事務局会議	-	随時
出会いと体験の森へ 実行委員会	2	4月18日・5月30日
出会いと体験の森へ リーダー交流塾	6	5月20日・5月27日(春のキッズフェスタ)・6月17日 10月14日・10月27日(秋のキッズフェスタ)・11月11日
普及・グリーフ	8	4月10日・5月2日・6月13日・8月28日・10月17日 11月20日-21・12月5日・1月16日

※ 特に表記のない場合、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)で実施

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程・会場等
監査	1	10月4日(静岡県監査課)
所長会	11	4月5日・5月22日・6月18日・7月2日・9月6日・10月19日 11月13日・12月14日・1月17日・2月6日・3月5日
県庁合同会議	1	4月17日
安全対策委員会	4	5月16日・6月18日・9月19日・10月5日 11月20日・12月11日・3月19日
外部評価委員会	3	8月2日・2月25日(評価伝達式)
東海北陸地区青少年 教育施設協議会研修会	1	11月29日-30日
静青協合同職員研修会	1	1月8日-9日
地域懇談会	1	11月4日
食堂定期協議会	1	10月22日

4) 各種団体等への協力・共催・後援

事業協力

日程	事業名	主催
5月27日	春のキッズフェスタ	体験の風をおこそう運動推進委員会
10月27日	あつまれ!秋のキッズフェスタ	(独)国立青少年教育振興機構
11月18日	静岡・子ども体験フェスティバル	(独)国立青少年教育振興機構他

※ 「春のキッズフェスタ」は(NPO)東京都キャンプ協会、「あつまれ!秋のキッズフェスタ」は(NPO)東京都キャンプ協会・(NPO)千葉県キャンプ協会の協力を得て実施。「静岡・子ども体験フェスティバル」は静岡県立朝霧野外活動センターが対応。

その他、協力・後援、協賛

団体名	事業名	種別
(公財)修養団	SYD ボランティア奨励賞	後援
(公財)修養団	青年ボランティアアクション in フィリピン	後援
(公財)修養団	幸せの種まきキャンペーン	後援
(公財)修養団	子ども自然体験キャンプ	後援
(公財)修養団	東日本大震災被災者招待 子ども自然体験交流事業	後援
(公財)修養団	東日本大震災被災者支援 青少年炊き出しボランティア実践隊	後援
(公財)修養団	震災ボランティアと青少年たち 全国青少年ボランティアリーダー研究会	後援
(公財)修養団	全国青少年フォーラム 震災からの学びと支援活動～	後援
(公財)横浜市体育協会	アウトドアリーダー講座	後援
WEA 実行委員会	WEA 野外指導者研修会	後援
(財)日本サイクリング協会	2012 Mt. FUJI エコサイクリング	後援
(財)日本サイクリング協会	2012 東京シティサイクリング	後援
宮城県キャンプ協会	はっちゃれキャンプ	後援
(NPO)環太平洋学生キャンプ	第 28 回環太平洋学生キャンプ	後援
(公財)日本教育科学研究所	アウトドアゲーム指導者講習会	後援
福島県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
(公財)日本レクリエーション協会	第 66 回全国レクリエーション大会 IN ふくい	協力
(NPO)東京都キャンプ協会	東京キャンプフェスティバル 2012	後援
(社福)朝日新聞厚生文化事業団	ピア・キャンプ 2012	後援
(公財)関西テレビ青少年育成事業団	リスクマネジメントセミナー in 関西 『災害のリスクに 대응するキャンプ力』	後援
秋田県キャンプ協会	チャレンジスノウキャンプ 2013	後援
宮城県キャンプ協会	スノチャレキャンプ	後援
鹿児島県キャンプ協会	アウトドア活動セミナー	後援
宮城県キャンプ協会	春チャレ*デイキャンプ	後援

5) 日常法人業務

円滑な事業推進のため、以下の日常業務を行った。

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／収益事業の運営管理／助成金事務／人事管理／諸規定(程)の整備／他団体との渉外窓口

本報告書内の法人名・各人の役職等は、各事業実施当時のものです。

CAMPING AWARD 2012 受賞者

野澤 巖 氏

推薦：公益社団法人日本キャンプ協会

1983 年の理事就任以来、28 年間にわたって日本キャンプ協会の要職を担い、文字通り我が国のキャンプの普及・振興のために力を注がれました。特に 1990 年、本会の社団法人化促進において重要な役割を果たされたこと、1998 年、キャンプ指導者養成を文部大臣認定事業「社会体育指導者の知識・技能審査事業」に追加認定させ、日本キャンプ協会の指導者養成を国の認定事業とする交渉の最先端に立たれ、初志を貫かれたことを決して忘れることはできません。この献身的なお働きにより、日本キャンプ協会は組織的整備が一層進み、人と人の力を結集した ASSOCIATION としての力を発揮する団体へと成長することができました。

その後も、2000 年の第 5 回国際キャンプ会議の開催、2012 年の公益社団法人への移行など、本会の重要な節目において、常にリーダーシップを発揮され続けられました。

松前 雅明 氏

推薦：福島県キャンプ協会

福島県キャンプ協会の組織づくりと指導者養成に常に活躍し、現在は事務局長として、家族ぐるみで協会運営に携わっておられます。特に 2002 年、全国キャンプ大会を福島県で開催した際には、松前さんの人柄のよさを反映したコミュニケーションと、献身的な仕事ぶりで大会を成功に導いてくださいました。また、地域の公民館活動事業の講師や県レクリエーション協会への事業協力、キャンプ指導にも多くかわり、福島県のキャンプ活動における貢献は非常に大きいものがあります。

キャンプを含む野外活動に対する強い情熱と行動力は、福島県キャンプ協会の今後の一層の発展に欠かせないものと言えます。

古口 倭子 氏

推薦：栃木県キャンプ協会

1993 年、第 2 回自然体験キャンプにスタッフとして参加されたことをきっかけに栃木県キャンプ協会に加入、以後、すべての事業に主要スタッフとしてかかわっておられます。また、キャンプだけでなく、登山、ネイチャーゲーム、クラフトなどの指導者として優れた資質をお持ちであり、東日本大震災支援など多くのボランティア活動にも参加されています。シニアキャンプの立ち上げ、2010 年のその復活に携わられたことは、古口さんの大きな功績です。また、長年構想を温めてきた低学年児童を対象とする「わくわく・どきどき・はじめてのキャンプ」も立ち上げられました。

栃木県キャンプ協会の運営においては、1997 年に理事、2010 年からは副会長に就任され、大いに貢献されています。

工藤 郁二 氏

推薦：群馬県キャンプ協会

1971 年にボーイスカウトの指導者になって以来、現在に至るまで、野外活動を通じた青少年の健全育成に取り組まれてきました。さらに地域においては、障害児の野外活動にも携わり、多大な功績を残してこられました。

2002 年から群馬県キャンプ協会理事、2006 年からは副会長として協会の運営に力を注ぐとともに、組織キャンプの普及・発展、指導者の育成に尽力されています。豊富な経験に基づいた指導技術は受講生の満足度も高く、講習会で資格を取得した多くの若手指導者が各地で活躍しています。

高橋 正和 氏

推薦：NPO 法人千葉県キャンプ協会

NPO 法人千葉県キャンプ協会副会長、千葉市キャンプ協会会長として、千葉県におけるキャンプ活動の普及に取り組み、千葉市のインストラクター講習においては責任を担っておられます。さらに 2012 年度からは、千葉県キャンプ協会の事務局責任者となり、県内の指導者のまとめ役として大いに活躍されています。

また、地元地域での活動にも積極的に取り組まれています。たとえば、千葉市山王公民館主催の夏休み子ども教室には、毎年、指導者として参加し、子どもたちが野外活動の楽しさを体験できるプログラムの提供を行っておられます。

飯田 弘 氏

推薦：NPO 法人東京都キャンプ協会

東京都キャンプ協会の要請に応じて D1 クラブを結成、その代表として理事に就任し、両者のパイプ役と務めると同時に、豊富な活動経験を生かして協会の運営を支援してこられました。また、事業部のメンバーとして東京キャンプフェスティバルや防災キャンプに力を注いでこられ、キャンプの普及、指導者の資質向上に大きな役割を果たされました。次世代育成のために理事を退かれた後も、専門部員として実務面で協会運営を支えてくださっています。

また、地域に根ざした活動を大切にし、幅広い年齢層を対象に普及活動を実施するとともに、指導者の育成に日々努めておられます。その温かな人柄と笑顔、卓越した指導技術は、背景にある多くの経験と共に、大きな影響を与えています。

山口 洋子 氏

推薦：愛知県キャンプ協会

愛知県キャンプ協会設立に際し、中心的役割を果たした団体のひとつである「名古屋市緑区子ども会」で 30 年以上にわたり、理事及び常任理事を務めてこられました。愛知県キャンプ協会では、長く主催事業の運営や講師を務めるとともに、主に広報を担当し、会報作成やホームページの充実にも努め、協会の発展に大きく寄与されました。

誰にでも優しく接する態度といつも笑顔を絶やさない姿は、現在も愛知県の多くのキャンプ指導者の目標となっています。

木村 和正 氏

推薦：京都府キャンプ協会

1968 年から京都市ユースサービス委員・百井青少年キャンプ場の運営委員に携わり、1981 年からは京都新聞社会福祉事業団において自閉症児のステップキャンプに従事されました。1983 年には日本ボーイスカウト京都連盟第 44 団カブスカウト副隊長となり、カブスカウト隊長を経て、シニア隊長までを務められています。さらに、1997 年から日本野外研究会に籍を置き、青少年の野外教育の指導者として、京都市のキャンプ指導者講習会の講師として、人材育成に努められています。

京都府キャンプ協会では、設立時から事業委員としてかわり、現在も運営委員としてインストラクター養成や月例会運営にご活躍いただいています。

日本ボーイスカウト大阪連盟

推薦：大阪府キャンプ協会

1949 年の設立以来、自然の中でのキャンプ活動や社会奉仕活動等を通して、青少年の健全育成を図るとともに、その指導にあたる指導者の養成・確保に努め、ボーイスカウト活動の目的であるよりよい社会人づくりを実践し、多大な貢献をしてこられました。設立 63 年目を迎えた現在、210 団に 10,616 名が所属し、野外活動プログラムを中心にスカウト活動の指導にあたっておられます。

また、大阪府キャンプ協会の発足当時より理事の役割を担い、協会及び組織キャンプの発展充実に大きく貢献してこられました。

桑田 千照 氏

推薦：兵庫県キャンプ協会

兵庫県キャンプ協会の前身とも言える、兵庫県野外活動指導者連盟の時代から野外活動を通じた青少年育成に携わってこられ、兵庫県キャンプ協会の創設にもご尽力いただきました。

以来、現在に至るまでも常に行動する指導者として、協会運営を支えてくださっています。

稗田 雄三 氏

推薦：奈良県キャンプ協会

奈良県キャンプ協会の設立に尽力され、事務局長を経て、現在は会長として協会の運営に携わっておられます。大学時代からキャンプ活動にかかわり、大阪府青少年活動財団で 36 年間、青少年

育成事業に携わられました。その間には、大阪府立総合青少年野外活動センター所長や大阪府立青少年会館館長等を歴任、財団退職後も地元で平成榛原子どもの森公園所長や宇陀市体育協会会長、奈良県子ども若者支援団体協議会副理事長、関西大学非常勤講師等を務めておられます。

現在も二か月に一度、奈良 YMCA で子どもたちとキャンプ活動をされる等、現在も長年の豊富な経験や知識を基に、青少年の健全育成に貢献されています。

川野 正雄 氏

推薦：岡山県キャンプ協会

岡山県キャンプ協会の設立に尽力し、初代副会長に就任、その後も二代目会長、中国四国ブロック理事を歴任されました。顧問となった現在も、協会の事業には欠かさず参加し、コアメンバーとして活躍されています。これらのお働きは、岡山県におけるキャンプ活動の普及に大きく貢献しました。

また、長年主催している山岳会の夏山登山や家族とともにキャンプを楽しまれる姿は、生涯を通じて野外活動に取り組む指導者として、私たちに大きな影響を与え続けています。

内藤 宗紀 氏

推薦：島根県キャンプ協会

1971年のキャンプ指導者養成講習会への参加をきっかけにキャンプに魅せられ、YMCAや東京YWCAでカウンセラーとして活動されました。1989年からは地域のキャンプ活動に積極的にかかわり、小学生を対象とした教育キャンプの企画運営を通じて、島根県西部地方にキャンプ活動の輪を広げることに貢献されました。1996年の島根県キャンプ協会西部支部「石西キャンプ協会」の設立においては、中心的な役割を果たされました。

また、現役の内科医として安全管理や救急法に関する的確な指導、助言をしていただくなど、安全なキャンプを目指す協会にとって、なくてはならない存在となっています。

鍋島 一仁 氏

推薦：広島県キャンプ協会

広島県キャンプ協会の前身である広島県野外活動協会の副会長として組織を支え、1995年の広島県キャンプ協会設立の際に初代理事長に就任されました。1997年には事務局体制を強化し、実務責任者である事務局長に就任、時代の変化に沿ったキャンプ活動の推進や指導者の育成に奔走してこられました。

全国都市緑化ひろしまフェアでは、協会として広島型クライנגアルテンを発表するなど社会へのアピールにも努め、広島県のキャンプ、野外活動の発展に大きく貢献されています。

川崎 依子 氏

推薦：高知県キャンプ協会

ガールスカウト活動を通じて、長年にわたり青少年の健全育成に尽力されているほか、高知県キャンプ協会においては、理事、事務局長、副会長を歴任されました。自然体験ふれあいキャンプやユニバーサルキャンプ、環境保全への取り組み等の企画運営に中心的な役割を果たし、協会活動の基礎確立、発展に尽力してこられました。

現在もキャンプ指導者の育成に熱心に取り組み、キャンプの底辺拡大と指導者の資質向上に大きく貢献されています。

中島 宏 氏

推薦：福岡県キャンプ協会

1975年ころから福岡県や福岡市の野外活動指導者講習会等で講師を務め、1988年には福岡市レクリエーション協会事業部内にキャンプ部会を発足、キャンプ・野外活動指導者の育成、活動の普及、発展に努めてこられました。福岡県キャンプ協会設立時には理事に就任、福岡市キャンプ協会では設立時に事務局長、2007年には理事長に就かれ、組織の発展に貢献されました。

中島氏の指導方法は斬新かつ独創的で、比類なき指導者といえます。長年にわたって教育的配慮のこもった野外活動の指導・普及に邁進した功績は非常に大きいものがあります。

吉村 正春 氏

推薦：長崎県キャンプ協会

長崎県レクリエーション協会の事業部長を務めながら、長崎県キャンプ協会においても事業部長として、長年にわたってキャンプの普及、発展に力を尽くしてこられました。さらに、地域の子ども会育成協議会でのリーダー育成にも携わり、子どもたちの健全育成に尽力されています。このように活躍の幅は大変広く、長崎市内はもとより県内各地に講師として出かけ、子どもたちの自然の中での遊びを支援しておられます。

常に向上心を持つ吉村氏は人望厚く、多くの人々に慕われています。



3月23日 CAMPING AWARD 2012 贈呈式

公益社団法人日本キャンプ協会 2012・2013 年度 役員

名誉会長	酒 井 哲 雄	頌栄保育学院学院長
顧問	斉 藤 保 夫	元城西大学教授
顧問	富 岡 幸 生	(財)日本健康開発財団専任講師
顧問	野間口 英敏	東海大学名誉教授
顧問	長谷川 純三	(社)日本オートキャンプ協会会長
顧問	野 澤 巖	元埼玉大学教授
顧問	永 吉 宏 英	大阪体育大学学長
代表理事 会 長	石 田 易 司	桃山学院大学教授
業務執行理事		
副 会 長	鳥 井 信 吾	サントリーホールディングス(株)代表取締役副社長
副 会 長	星 野 敏 男	明治大学教授
専務理事	金 山 竜 也	(公社)日本キャンプ協会事務局長
常務理事	神 崎 清 一	(公財)日本YMCA同盟ウェルネス事業担当総主事
常務理事	吉 田 大 郎	静岡県立朝霧野外活動センター所長
理 事	外 山 真 理	(公財)東京YWCA 業務執行理事・青少年育成事業部統括責任者
	郭 麗 月	かく・にしかわ診療所医師・心斎橋心理療法センター代表
	木 村 公 一	(公財)ボーイスカウト日本連盟事務局長
	佐 藤 初 雄	(NPO)国際自然大学校代表
	岡 智 子	(公社)ガールスカウト日本連盟副会長
	高 野 孝 子	(NPO)エコプラス代表理事
	平 野 吉 直	信州大学教授
	高 見 彰	大阪国際大学教授
	錦 織 一 郎	大阪府キャンプ協会会長(近畿)
	大 天 嘉 行	岡山県キャンプ協会会長(中・四国)
	篠 塚 博 道	千葉県キャンプ協会会長(関東)
	舟 橋 弘	愛知県キャンプ協会会長(中部・北陸)
	村 山 昌 俊	新潟県キャンプ協会(東北・北海道)
	福 満 博 隆	鹿児島県キャンプ協会会長(九州・沖縄)
監 事	片 岡 敬 一	(公財)日本レクリエーション協会総務部長
	林 寿 夫	(株)野外計画代表取締役
	村 松 真 哉	(財)ハーモニィセンター 事務局次長

公益社団法人日本キャンプ協会 2012・2013 年度 運営委員

公1事業	浅野 修	(公財)仙台観光コンベンション協会職員
	大浦 秀樹	(公財)ボーイスカウト日本連盟教育部課長
	久保田 康雄	国立阿蘇青少年交流の家所長
	澤田 祥子	公益財団法人東京YWCA社会福祉事業部統括代理
	翠尾 由美	(財)児童育成協会こどもの城主任指導員
	林 健児郎	(NPO)自然体験活動推進センター代表
	福田 年之	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団事業部長
	太田 恒義	常葉学園大学非常勤講師
	鶴川 高司	有限会社掌代表取締役
	針ヶ谷 雅子	明治大学兼任講師
	太田 正義	(NPO)子どもの体験活動サポートセンター理事長
	高橋 伸	国際基督教大学保健体育科講師
	山根 一毅	(公財)日本YMCA同盟協力部門国際担当主任主事
	佐々木 豊志	くりこま高原自然学校代表
	平田 裕一	至学館大学教授
	師岡 文男	上智大学教授
公2事業	遠藤 知里	常葉学園短期大学講師
	時安 和行	至学館大学准教授
	嶋崎 博嗣	東洋大学教授
	吉松 梓	駿河台大学助教
	土方 圭	明治大学法学部兼任講師
	池畑 亜由美	順天堂大学マルチサポート事業プロジェクトコーディネーター
	今井 正裕	(一財)大阪府青少年活動財団吉野宮滝野外学校部長
	片岡 麻里	(公社)ガールスカウト日本連盟事務局次長
	粥川 道子	北翔大学教授
	鈴木 由美	女子美術大学非常勤講師
	富山 浩三	大阪体育大学教授
	中村 正雄	大東文化大学スポーツ・健康科学部教授
	野口 和行	慶應義塾大学准教授
	西島 大祐	鎌倉女子短期大学部講師
公3事業	甲斐 知彦	関西学院大学人間福祉学部教授
	小森 伸一	東京学芸大学准教授
	多田 聡	明治大学准教授
	永吉 英記	国士舘大学講師
	布目 靖則	中央大学教授
	星野 太郎	(公財)東京YMCA野外教育センター事業部長
	渡邊 仁	筑波大学助教

公 3 事業	青木 康太朗	北翔大学講師
	月 橋 春 美	宇都宮共和大学准教授
法人事務	神 谷 稔	田上税務会計事務所税理士
	逸 見 博 幸	秋田県キャンプ協会理事長
	藤 枝 隆	(NPO) 東京都キャンプ協会事務局長
	藤井 三弥子	愛知県キャンプ協会理事長
	清 水 勲 夫	兵庫県キャンプ協会事務局長
	近 藤 剛	鳥取県キャンプ協会会長
	工 藤 福 成	大分県キャンプ協会理事長

事務局スタッフ(2013 年 3 月 31 日現在)

事 務 局 長	金 山 竜 也	(全体統括・公 2 事業・法人事務)
事務局次長	秋 山 千 草	(法人事務)
主 幹	戸 室 勇 児	(公 3 事業)
主 事	吉 野 宏 美	(公 1 事業)
主 事	前 田 將 太	(公 2 事業)
主 事	五月女 真弓	(公 1 事業)

Gift for the Next 100 Years

公益社団法人日本キャンプ協会
www.camping.or.jp

SKY CAMP in よしま
2013.3.26-30

